



3月11日の地震直後の教材資料室の様子。倒れた本棚が揺れの強さを物語っています。

あじけん通信

2011 April
Vol.40

株式会社ティビィシー国際外語学院
企画・編集 澁谷 健司

この度の東日本大震災により、尊い命を失われた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

震災当日は、あじけんも写真の通り、本棚が倒れてしまうほどの長く強い横揺れがありました。それでも、実習生の皆さんが冷静かつ迅速に避難の指示に従ってくれたおかげで、実習生全員の安全を無事確保することが出来ました。また、地震直後は電気・水道・ガスが一時的にストップしたものの、幸い当日の深夜には復旧し、その後現在までライフラインの供給が止まったことはありません。現在も多少の余震が続いていますが、実習生の皆さんは、元気に日本語学習に励んでいます。

あじけん日本語講師ファイル Vol.5: 林 蓉子



私は中国上海出身で、来日 21 年になります。この仕事を始めて今年で 5 年目です。中国をはじめ外国からの実習生達は、異国の日本へ来て、言葉の壁や慣れない環境の中でとても大変だと思います。私自身も来日当時に味わっているもので、彼らの気持ちはよく分かります。常に笑顔とやさしい気持ちで実習生と接することを心がけています。少しでも不安な気持ちを和らげ、リラックス出来る雰囲気を作ってあげたいと考えています。

Q1 これまで教えた中でいちばん印象に残っている実習生は？

中国の実習生（畜産）章冬琴さんです。去年の夏、彼女は日本で 3 年間の実習生活を終えて、帰国する前日、あじけんに会いに来てくれました。笑顔と明るい表情は三年前と変わりませんでしたが、変わったのは、日本語がとても流暢になったことでした。「自分の目標を達成し、仕事は大変だったけど、充実した 3 年間でした」と晴々とした表情で話してくれました。

Q2 当校の日本語指導において最も大切にしていることは？

100 時間という限られた時間の中で、如何に「話す」能力を伸ばすかが最も大切だと思っています。授業中はもちろんのこと、授業以外の時間でも積極的に実習生達に話しかけ、発話を引き出す事を心掛けています。

今月の実習生



中国：湖北省出身 劉智遠さん

今月の実習生は、中国から愛用のデジタル一眼レフのカメラを持参してきたほどの写真好きの青年、劉智遠さんです。

「初めまして、私は劉智遠と申します。私の趣味は写真で、とくに小さいものを撮るのが好きなので、日本滞在中に是非、専用のレンズを買いたいです。下の写真は中国で初めて日本食を食べた時に撮った写真で、私の大好きな写真です。

また、以前中国の日本語テキストで見た『京都嵐山のもみじ』の写真に感動しました。日本では季節をテーマに自然の写真をたくさん撮りたいと思っています。」



懐中電灯の灯りを使い、夜のあじけん中庭でTBCのロゴを撮影してみました！

あじけん流日本語授業

～学習者主体のコミュニケーション活動②：グループ会話～

今月のあじけん流日本語授業は、先月号でご紹介した「朝の会」の中で行なわれている、会話リーダーを中心とした「グループ会話」の様子をお届けします。

このグループ会話は、学習者が10名を超えるような比較的大人数クラスの場合に実施されています。例えば、実習生が18名いるクラスの場合、クラスを3つのグループ（各6名）に分けます。そして、各グループ毎に1名の「会話リーダー」を置き、その会話リーダーを中心にグループ内で会話練習が進められていきます。その間、朝の会を担当している実習生は各グループを回って会話の内容を確認したり、会話に参加したりします。

このグループ会話練習を通して、学習者は楽しみながら、主体的に日本語を話す練習が出来ます。また、限られた時間の中で効率的に会話を練習することも出来ます。

当番の張です。
よろしくおねがいします。

曹です。よろしくお
ねがいします。

このグループはどんな話
題を話していますか？

みなさん、週末はどん
なことをしました
か？

えー、昨日の夜作った晩ごは
んについて話しています。


きぼう。
～希望 HOPE～